

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●WAS Jは川田将雅騎手およびJRA選抜が優勝

2019ワールドオールスタージョッキーズ(WAS J)が、8月24日(土)の2回札幌3日と翌25日(日)の2回札幌4日に計4戦で実施され、川田将雅騎手(栗東・フリー)が3着、3着、5着、1着で計70ポイントを獲得、個人戦優勝を飾りました。またチーム対抗戦ではJRA選抜(JRA代表騎手チーム)が計246ポイント、WAS選抜(外国騎手・地方競馬代表騎手チーム)が計202ポイントとなり、JRA選抜が優勝しています。

### ●松山弘平騎手がJRA通算600勝を達成

8月24日(土)の2回小倉9日・第3レースではストームガストが1着となり、同馬に騎乗した松山弘平騎手(栗東・フリー)は、現役32人目となるJRA通算600勝(8155戦目)を達成しました。

### ●川田将雅騎手がJRA年間100勝を達成

8月24日(土)の2回札幌3日・第6レースではストームリッパーが1着となり、同馬に騎乗した川田将雅騎手(栗東・フリー)は、2016年以来3年ぶり5回目となるJRA年間100勝を達成しました。

### ●M.ミシェル騎手がJRA初勝利をあげる

8月25日(日)の2回札幌4日・第10レースとして行われた2019ワールドオールスタージョッキーズ第3戦ではスワーヴアラミスが1着となり、同馬に騎乗したミカエル・ミシェル騎手(フランス)は、JRA初勝利(3戦目)をあげました。

### ●小笠倫弘調教師がJRA通算200勝を達成

8月25日(日)の2回札幌4日・第6レースではシネマソングスが1着となり、同馬を管理する小笠倫弘調教師(美浦)は、現役106人目となるJRA通算200勝(延べ3373頭目)を達成しました。

### ●ジョッキーベイビーズ3地区の代表決定

8月17日(土)には福島競馬場で、翌18日(日)には兵庫県三木市の三木ホースランドパークで、25日(日)には宮崎県宮崎市のJRA宮崎育成牧場で全国ポニー競馬選手権「第11回ジョッキーベイビーズ」の地区代表決定戦が実施されました。渡邊新さん(中学1年生・新潟乗馬スポーツ少年団)が東北・新潟地区、湯窪倅生さん(中学1年生・水口乗馬クラブ)が関西地区、吉永梨乃さん(小学6年生・かわなべ馬事公苑)が九州地区の代表に決定しています。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●WAS Jで吉村智洋騎手が第7位、的場文男騎手は第13位

8月24、25の両日に札幌で4レースのポイント制で行われた2019ワールドオールスタージョッキーズに、地方競馬から参加した兵庫の吉村智洋騎手は6、6、7、4着という成績で第7位、大井の的場文男騎手は13、13、8、12着で最下位の第13位タイでした。

### ●コーラルツッキーがフルールCを制覇【各地の主要2歳重賞】

フルールC(8月15日、門別、1000<sup>円</sup>、牝馬)は、1番人気の栄冠賞3着馬コーラルツッキー(父シニスターミニスター)が1馬身半差で逃げ切りました。

### ●黒潮盃(大井)は北海道のリンノレジェンド【各地の主要3歳重賞】

黒潮盃(8月14日、大井、1800<sup>円</sup>)は、3番手から直線に入って間もなく抜け出した2番人気の北海道からの遠征馬リンノレジェンド(牡、父トビーズコーナー)が、1番人気のグリッドパルフェ(船橋)に2馬身半差を付け、重賞初制覇を果たしました。ダイヤモンドC(8月18日、水沢、1600<sup>円</sup>)は、先手を取った単勝1.3倍で圧倒的人気の東北優駿の覇者パンプキンズ(牡、父スターリングローズ)が2馬身半差で完勝。加賀友禅賞(8月25日、金沢、1400<sup>円</sup>、牝馬)は、4番手から3、4コーナー中間で先頭に立った石川ダービー馬ロンギングルック(父グランプリボス)がそのまま押し切り、単勝1.4倍の支持に応えています。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●G1ヨークシャーオークス～エネイブルが12連勝

イギリスのヨーク競馬場で8月22日に行われたG1ヨークシャーオークス(3歳上牝、芝2370<sup>m</sup>)はL.デットーリ騎手を背に逃げたエネイブル(牝5歳、父ナサニエル、J.ゴスデン厩舎)がG1・2勝馬マジカルに2馬身 $\frac{1}{2}$ 差をつけて優勝。10個目のG1勝ちを収めるとともに、一昨年5月から続く連勝を12に伸ばしました。次走は史上初の3連覇がかかるG1凱旋門賞(10月6日、仏パリロンシャン競馬場、芝2400<sup>m</sup>)の予定です。

### ●G1トラヴァーズS～コードオブオナーがG1初制覇

8月24日にアメリカ・ニューヨーク州のサラトガ競馬場で行われたG1トラヴァーズS(3歳、ダート2000<sup>m</sup>)は後方でレースを進めたコードオブオナー(牡3歳、父ノーブルミッション、C.マゴーヒー厩舎)が直線で豪快に突き抜けて、G1ベルモントS2着馬タシトゥスに3馬身差をつける快勝。今年で150回目を迎えた大レースでG1初制覇を飾りました。コードオブオナーは今年5月のG1ケンタッキーダービー2着(3位入線繰り上がり)の後、残りの2冠を回避。約2か月ぶりのレースとなった前走7月6日のG3ドワイヤーS(ダート1600<sup>m</sup>)を3馬身 $\frac{1}{4}$ 差で制していました。